

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03-3269-1131
<http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp>
毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

今月の主な紙面

- (1面) ●大内憲明戦略研究リーダーにきく J-START
- (2・3面(見開き))
 - 大内憲明戦略研究リーダーにきく J-START
 - 話題 思春期の貧血への対応
 - 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ 保健指導シリーズ 第13回: 医師/保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ●第224回ヘルスケア研修会 拡がる職場不適合
 - 東京都のピンクリボン運動に協力し、検診車をラッピング—本会
 - 新型インフルエンザ対策行動計画で対応—本会
 - お知らせ

第3次対がん総合戦略研究事業 課題1

乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験

背景
1 わが国では乳がん死亡が急増中
2 日本人は40歳代に多く、高濃度乳房が多い
3 マンモグラフィは高濃度乳房で精度が低く、死亡率減少は期待できない
4 超音波検査による乳がん検診は標準化されていない
5 超音波検査による乳がん死亡率減少効果は示されていない

超音波検査による乳がん検診の標準化と普及

大規模臨床試験による検証	
対象	40~49歳女性、各群6万人、計12万人
方法	ランダム化比較試験(RCT) マンモグラフィ+超音波群 vs マンモグラフィ群
アウトカム	プライマリエンドポイント: 検診精度(感度、特異度) セカンダリエンドポイント: 累積進行がん罹患率

乳がん死亡率の減少

①または②の6万人の計12万人の参加者が

① 検診精度(感度、特異度)を評価する。② 累積進行がん罹患率を評価する。

①または②の結果、検診精度(感度、特異度)が期待できるのであれば、乳がん検診の指針が改正されることになるでしょう。

しかし、統計学的に有意であることを示すには、各群

わが国初の 大規模臨床試験

これまで日本で1万人を超えた臨床試験はありませんので、未曾有の大規模臨床試験と言えます。

さらに、超音波検査の利益・不利益についても、詳細に調べる必要があります。

一方で、本研究を弾みにして医療用超音波機器の進歩も期待されます。いわゆる「研究インフラ整備」ですが、超音波の研究開発が乳がんのみならず、各種がんの診療技術開発にも影響を与えることになるでしょう。

また、いまだ有効性評価が固まっていない、胃がん内視鏡検診、肺がんCT検診、前立腺がんPSA検診の評価研究にも大きく影響するでしょう。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江崎良晴 三輪祐一

お問い合わせ・ご相談は(予約制)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

大内憲明 戦略研究リーダー 東北大学大学院教授にきく



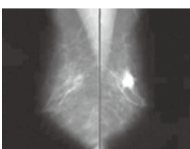
乳がん超音波検査の有効性を科学的に検証

40歳代の女性に適した 検診方法の確立めざす

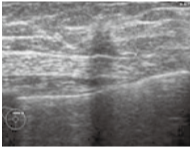
日本女性の30~60歳の死亡率第1位である乳がん。発症のピークは40歳代だが、現在行われているマンモグラフィ検診はこの年代には限界があるとされ、より有効な検診の開発が急務となっている。こうした中、40歳代の女性への乳がん超音波検査の有効性を検証する国家的なプロジェクト、厚生労働科学研究が、戦略研究のための戦略研究「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験(J-START)」が始まった。本会も研究参加団体として協力しているこの研究について、戦略研究リーダーの大内憲明東北大学大学院教授(写真)にお聞きした。



がん戦略研究



マンモグラフィ
・全乳房の記録性・再現性あり
・精度管理が確立されている
・欧米で確立された唯一のEBM



超音波
・2次元断面で記録性・再現性に問題
・精度管理が確立されていない
・有効性を示す根拠はない

—J-STARTとは、どのような研究なのでしょう。大内教授 超音波による乳がん検診の有効かどうかを検証する研究です(図)。

具体的にはマンモグラフィに超音波検査を併用する群と併用しない群に割り付けるランダム化比較試験(RCT)を実施します。

超音波検査は通常の診療(有症状)では欠かすことのできない有力な診断技術ですが、無症状の女性を対象とする乳がん検診では、記録性・再現性に問題があり、有効性も確立されていません。そこで、研究班では、日本乳腺甲

腺超音波診断会議(JAB)の協力を得ながら、ガイドラインの作成、乳房超音波講習会の開催により、超音波による乳がん検診の標準化をめざしています。現在、講習会受講者数は医師、技師ともに1千人を超えています。

超音波による乳がん検診の有効性を検証するために、40~49歳女性を対象に、①マンモグラフィに超音波を併用する群(介入群)と、②超音波を併用しない群(非介入群)を、各群6万人、計12万人のRCTとして設定しています。

J-STARTの研究成果によって、どのようなことが期待できるのでしょうか。大内教授 研究の結果、超音波による乳がん検診が有効であることが示されれば、乳がん検診の指針が改正されることになるでしょう。

しかし、統計学的に有意であることを示すには、各群

どちらになるかは、研究の科学的妥当性を保つため、中央データセンターによりランダムに割り付けられます。

いずれかの検診を受けた2年後の状況を追跡調査することに

研究に参加した場合の利益と不利益にはどのようなことが想定されますか。大内教授 がん検診の「利益」はがんによる死亡率を下げることで、その科学的根拠が示されているのは世界中でマンモグラフィのみであり、しかも対象は50歳以上の女性と限定的です。40歳代の乳がん検診については、まだ確固たる検診方法がないのが現状です。

乳がん検診に超音波検査を併用することで、検診の精度が高まるかどうか、不利益はないのか、まだ確かめられていません。マンモグラフィ検査で見つからないがんを超音波検査で見つけることもありますが、逆にがんではないのに、精密検査が必要と判定される方が多くなることも考えられます。

こうした利益・不利益を考慮に入れ、研究へのご理解とご賛同をいただいた上で、試験に参加していただければ幸いです。

以上のように、研究の科学的妥当性を保つため、中央データセンターによりランダムに割り付けられます。

いずれかの検診を受けた2年後の状況を追跡調査することに

厚生労働科学研究

「がん対策のための戦略研究」とは

厚生労働省の国家的プロジェクト。行政のニーズによって計画され、「国民の健康に関する課題や国民生活の安心・安全に関する課題」を解決するために、その成果を使用することを前提として実施される研究(戦略的アウトカム研究策定に関する研究班、主任研究者:黒川清)である。成果をできるだけ速やかに診療ガイドラインなどに反映し、実際の診療などに広く活かすことが期待される。

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。

第224回ヘルスケア研修会 広がる職場不応

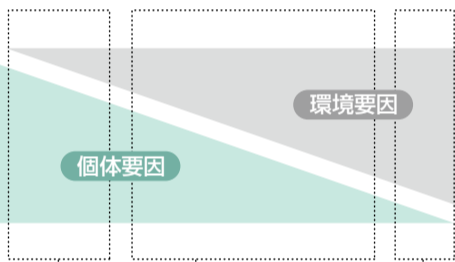
増えている「未熟型」うつ病 正しい理解と育てる意識で対応を

就業形態の多様化などにより、仕事に関して強い不安やストレスを感じている労働者は6割を超え、精神障害等による労災認定件数も増加傾向にある。厚生労働省は2006年に、「労働者の健康の保持増進のための指針」を策定するなどして、メンタルヘルス対策の強化を図っている。こうした中、去る3月25日、健康管理コンサルタントセンターと本会が主催する第224回ヘルスケア研修会が開催され、筑波大学大学院(産業精神医学教室)の松崎一葉教授(写真)が、「広がる職場不応—未熟な人格をどう育てるか」と題して講演を行った。



講演の冒頭、松崎一葉教授は、精神科の専門医の間でも適応障害や抑うつ状態、うつ病などの診断名が混乱して使用されている現状を指摘し、「従来型のうつ病と人格の未熟に伴う適応障害をきちんと判別することが重要である。正しい診察に従い、投薬など主治医が行う治療と、環境調整など産業保健スタッフが行う対策を連携して進めることが大切である」と述べた。続けて、松崎教授は「正しい診察の方」について、疾病の発症様式の図を示しながら、「メランコリー親和型などの従来型のうつ病患者は、自分が病気になることを否定して病院に行きたがらず、会社も休みたがらない。こうなったのは自分が悪いと考える傾向にある。一方、最近増えているディストミア親和型(未熟型)などのうつ病患者は、自己愛が強く他罰的で、決して自分が悪いとは考えず、会社や上司が悪いと考え、自己中心的な対応に終始する結果、職場適応が遅れる傾向にある。」

図 疾病の発症様式



先天的疾患 適応障害 過重労働によるもの
人格の障害 ストレス反応 → 労働災害

未熟な仮病だと考えると腹立たしいなどの陰性感情が湧いてくるが、未熟型は決して仮病ではなく、確実に抑うつ状態を呈しているのがある。人格の未熟性により、ストレス脆弱性が非常に強いので、すぐにうつ状態になる。

お知らせ

第226回ヘルスケア研修会
生活習慣改善と
定期的歯科検診

講演ではこの他、仕事の能力は極めて高いが、自己愛が強く、支配的で、部下をうつ病にしながら出世していく「グラスチャー」タイプへの対処方法なども紹介された。最後に、松崎教授は未熟型対策のまとめとして、①陰性感情を制御して適切に評価する。②未熟な障害ではないことを認識する。③企業が未熟型の人を育てるという意識を持つ。④就業規則を整備しコンプライアンスを確保する。⑤精神科の主治医と産業保健スタッフが適切に連携する。などについて解説し、講演を締めくくった。

乳幼児期からの健康づくり

7月10日(金)午前10時～午後5時
東京・渋谷区「こどもの城」

こどもの城食育講習会「乳幼児期からの健康づくり」医学・栄養・運動の3点から、7月10日(金)10時から5時まで、東京渋谷区の「こどもの城」で開かれる。

新型インフルエンザ対策 行動計画で対応 本会

本会では昨年12月、北川照男理事長を対策本部長とする「新型インフルエンザ対策委員会」を設置し、行動計画について検討を重ねてきた。先月まとまった行動計画で

は、①受診者、患者、職員とその家族を感染から守るとともに、感染拡大の防止を図る。②事業活動の継続および休止の計画を定める。③2点を目的として掲げている。行動計画の柱となる規定は以下の通り。
フェーズ4B(国内で患者発生となり、東京都の公立学校が休校となった時点、または首都圏で感染拡大が危惧される場合)、健康業務はできるだけ速やかに休止する。フェーズ4Bで健康業務が休止となった後も、必要な事業は交代制を組み継続する。事業を休止せざるを得ない場合は、関係団体、ユーザー、行政の担当部門に連絡した上で休止する。
フェーズ4B以降になつて

もクリニック業務は継続し、5B(国内で感染が拡大)以上になった時点で休止する。フェーズ5Bを経てフェーズ6B(国内で大流行)の後、学校再開を目安として健康業務を再開する。
行動計画ではこの他、感染防止対策、感染者発生時の対応、家庭での対策、緊急連絡方法などを定めている。
今回メキシコやアメリカを中心に感染が拡大している豚由来の新型インフルエンザ(H1N1)に関しても、対策本部を設置し、行動計画に沿った対策が進められている。対策委員長の三輪祐一部長は、「本行動計画は暫定的なもの。今後は不測の事態も起こりうるので、状況に応じて随時見直し、修正を加える必要がある」と語った。

お問い合わせ・申し込みは、こどもの城小児保健部の太田、北原まで。電話03-3797-5667、FAX03-3797-5551、メールshouni@kodomonoshiro.jp

東京都のピンクリボン運動に 協力し、検診車をラッピング

本会

乳がんは日本人女性の20人に1人が罹るが、年間死亡数は1万人を超える。しかし、早期に発見すれば治る可能性の高いがんでもあり、マンモグラフィ(マンモ)による乳がん検診が推奨されている。

東京都ではこの度、乳がん検診の普及・啓発を行うピンクリボン運動の一環として、乳がん検診の大切さを伝えるメッセージをマンモ検診車にラッピングし、走行中や検診場所で受診を呼びかける取



組みを企画。本会もマンモ検診車を提供するなどの協力を

行った(写真)。この取り組みを主催している東京都福祉保健局の桜山豊夫技監は、取り組みの目的について次のように語った。「高齢化が進展する中で疾病構造が変化し、がん対策が極めて重要な課題となってきた。中でも乳がんは女性に多いが、現在、増加の傾向にあるが、東京都の乳がん検診受診率は全国に比べて低く、死亡率も高い。こうした状況をなんとか改善しなければいけないと考えている。」

そのためには効果の確認されているマンモによる乳がん検診の普及と受診率の向上が重要である。また同時に、検診に必要な読影医や放射線技師、検査機器などを確保するなどの対策を総合的に進めなければならない。このため東京都では、マンモ検診機器等の購入に補助金を出すなどの支援も行っている。
この度、マンモ検診車のラッピングを行った他、女性向けに「あぶらとり紙」、男性向けに、大切な人に乳がん・子宮がん検診を勧めてほしいというメッセージの入った「携帯クリナー」などのグッズも配布して受診勧奨を行っている。

Cardio Ankle Vascular Index
キャビイ
CAVI 検査が
機能アップして使いやすくなりました
さらに心電パッケージを追加することで、心電図検査も可能になります。
コンパクトカラー液晶
院内システム対応
R-R検査
心電パッケージ追加可能(オプション)
血圧脈波検査装置
VaSera™ VS-1500N
医療機器承認番号: 21800BZX10162000
FUKUDA DENSHI
〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) http://www.fukuda.co.jp/
お客様窓口… ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～18:00
● 医療機器専門メーカー フクダ電子株式会社

